

瀬戸内海東部のアイゴの成長と産卵時期

【はじめに】香川県ではアイゴは主に秋に小型定置網で漁獲されています(図1)。本種は、沖縄県を除く西日本の多くの地域では、藻場やアマモ場の食害種として認識されています。しかしながら、瀬戸内海東部では地場消費されています。山田(1968)による四国料理番付では、白鳥のアイゴの大根煮と徳島県穴喰のアイゴ一夜干しは、前頭に番付されています。今回、瀬戸内海東部の3海域でサンプリングを行い、成長や産卵期などの知見を得たので報告します。



図1 夏に漁獲されたアイゴ(上, ♂; 下, ♀). 生殖腺が大きくなっている。

【方法】2013年の4~12月に香川県引田漁業協同組合(以下、漁協)、徳島県椿泊漁協、岡山県日生町漁協の小型定置網で漁獲されたものを標本とし、^{じせき}耳石を薄く切断した標本の観察(図2)と生殖腺重量指数(生殖腺重量/体重×100)の季節変動から、それぞれ成長と産卵時期を調べました。

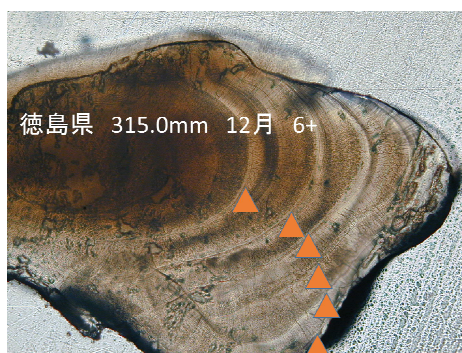


図2 アイゴの耳石の横断薄片切片。

【結果】最高年齢は雄と雌でそれぞれ4歳と8歳となりました。雌雄の成長差は認められず、1歳で169 mm, 2歳で206 mm, 3歳で227 mm, 4歳で239 mm となりました(図3)。

$$SL_t = 255\{1 - \exp[-0.56(t - 0.95)]\}$$

SL: 標準体長(mm), t: 年齢

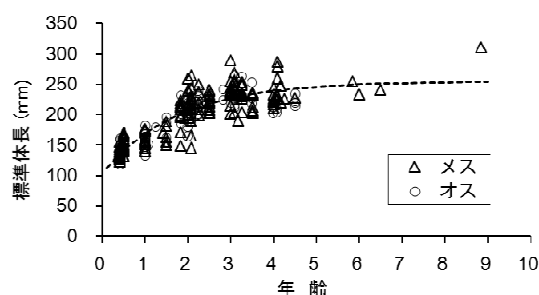


図3 アイゴの年齢と体長の関係。

雌雄の生殖腺重量指数の季節変動から、本種は6~8月に産卵し、主産卵期は6月中旬から7月であることが分かりました。

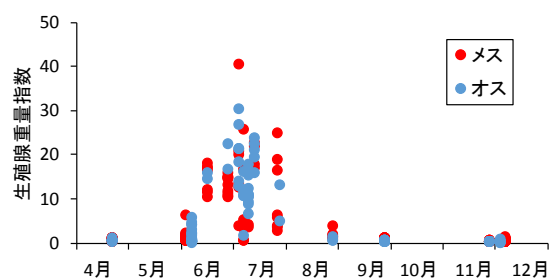


図4 生殖腺重量指数の季節変動

【参考文献】

- 山田竹系(1968) 味覚の四国路. 「新四国風土記」(山田竹系編), 宮脇書店, 高松, pp. 105-121.
- 山本昌幸・棚田教生・元谷 剛・小林靖尚・片山知史(2020) 瀬戸内海東部におけるアイゴの年齢・成長と産卵. 水産海洋研究, 84, 178-186.
- (文責 主席研究員 山本昌幸)